

# 平成29年度 施策評価シート

基本目標	IV	安心して暮らせる「すみだ」をつくる
政策	460	安心して子育てができ、子ども・若者が夢や希望をもてるまちをつくる
施策	462	地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる
施策の目標	未来を担う大切な子ども・若者が、開かれた地域のなかでさまざまな人とつながり、人に対する思いやりの心を育みながら、輝く笑顔にあふれ健全に成長しています。	

## 1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「地域のなかで子どもたちが健やかに成長している」と思う区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標					70.0					75.0
実績	67.8									
指標名	学童クラブの待機児童数									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	10	5	0	0	0					0
実績	139	187								

## 2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移 (千円)	
子どもたちの健全育成を図る居場所として、児童館は大きな役割を担っている。そこで、児童館として、事業の充実及び施設整備の整合性を図る必要があることから、平成29年度に児童館のあり方検討を行い、今後の方針を整理する。また、子どもたちの放課後の過ごす場所として、放課後総合子ども総合プランとの整合性を図りながら、学童クラブの新設を図っていく。	H28	1,343,942
	H29	
	H30	

## 3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	各事業を実施することにより、子どもの健全育成の環境づくりに寄与されている。

## 4 今後の施策の運営方針

評価	施策の戦略的方向性
○	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
児童館及び学童クラブは子どもたちの放課後等に過ごす場所として欠かせない場所となっていることから、安全にかつ安心して過ごせるために、施設整備を行う必要がある。	
【今後の具体的な方針】	
平成29年度の児童館のあり方検討の結果を受けて、事業及び施設の充実を図っていく。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標		直近の評価内容
				年度目標値	推移	評価結果
				年度実績値		評価対象年度
1	民間委託分児童会館費	618,111	児童館の適切な管理・運営により、安全で安心な児童健全育成の場所を確保する。	561,000	→	現状維持
				555,575		平成28年度
2	民間委託分学童クラブ費	560,401	学童クラブの待機児童の解消を図るとともに、児童の健全に育成できる環境を整える。	10	↘	現状維持
				139		平成28年度
3	子ども・子育て複合施設(京成高架下利用)整備事業費	0	室内で児童が安心して多様な体験ができる施設を整備することにより、児童の健全育成のための環境が向上する。	0	→	改善・見直し
				0		平成28年度
4	新設学童クラブ設置等経費	30,518	学童クラブを開設することで、安心して働くための子育て支援サービスを利用できる環境づくりにつながる。	10	↘	現状維持
				139		平成28年度
5	児童館トイレ改修工事	10,554	児童館のトイレを利用者がより快適に使用できるようになり、地域の子育て支援施設としての機能が強化される。	561,000	→	改善・見直し
				555,575		平成28年度
6	放課後子ども総合プラン推進事業	11,770	地域と連携して、放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動ができる居場所を確保することができる。	10	↘	改善・見直し
				139		平成28年度
7	保育園改築事業(学童クラブ部分)	84,640	保育園と学童クラブの複合施設の建設により、安心して働くための子育て支援サービスを利用できる環境づくりの整備につながる。	10	↘	現状維持
				139		平成28年度
8	私立学童クラブへの助成	23,744	学童クラブの待機児童の解消を図るとともに、児童を健全に育成できる環境を整える。	10	↘	現状維持
				139		平成28年度
9	民間児童館活動支援事業	2,085	子どもたちが放課後等過ごす場所として、安全・安心かつ多様な体験ができる居場所を確保する。	60	↗	現状維持
				63		平成28年度
10	地域組織活動育成事業	150	子どもたちの健全育成に寄与するために活動する地域組織を補助することにより、安心して働くための子育て支援サービスを利用できる環境づくりにつながる。	15	→	現状維持
				15		平成28年度
11	次世代育成支援行動計画推進事業費(児童館)	1,969	児童館の設備(ベビーキープ、ベビーベッド、乳幼児コーナー)の整備を図ることで、乳幼児事業の運営をサポートする環境をつくる。	11	→	現状維持
				11		平成28年度
12	地域交流事業	331	保育園と地域との交流を促進し、豊かな人間性を持った子どもを育成するとともに、地域に開かれた保育園(こども園を含む)になり、地域の子育て支援を行う。	5000	↗	統合
				5376		平成28年度

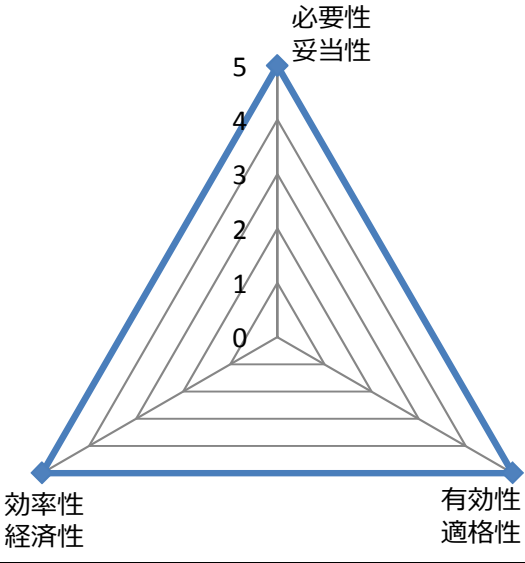
# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	462	地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	民間委託分児童会館費					1		
事業概要	指定管理者施設として、区内児童館の運営を法人に委託する。					主管課・係（担当）		
						子育て政策課児童館担当		
						03-5608-6195		
施策への 関連性	児童館の適切な管理・運営により、安全で安心な児童健全育成の場所を確保する。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	児童館の受入れ年齢が18歳まで拡充されたことにより、乳幼児から中高生向けまでの幅広い事業が求められている。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	児童館は児童が自由に利用できる児童厚生施設であることから、公共施設として運営する必要がある。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	児童館数				単位	館
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		11	37	目標	11	11	11	
				実績	11			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	11	11	11	11	11	
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	児童館は区内に11館あり、今後もこの館数を維持していく。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	児童館利用者数（11館）				単位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		561,000	37	目標	560,000	560,000	561,000	
				実績	555,575			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標						
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
利用者数を指標とする。平成32年度以降の目標値については、長期修繕計画と整合を図りながら、設定する。								
財政面 (決算額) (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	618,111							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕指定管理者の更新時期に金額が増額する傾向にある。				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
児童館の受入れ年齢が18歳まで拡充されたことにより、乳幼児から中高生向けまでの幅広い事業が求められている。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
児童館は多様な事業を実施することにより、児童が健全に育成できる施設として機能している。		5	5	5	5
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>現状維持の上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
法人に委託することにより、民間活力を活用した多様な事業の展開が図られる。					
<b>中間・最終年度の講評</b>	児童館の適切な管理・運営により、安全で安心な児童健全育成の場の確保及び地域子育て支援拠点機能の整備がなされている。				
<b>今後の方向性</b>	平成29年度の児童館のあり方検討において、役割や機能を整理し、大規模改修等も検討しながら、より効果的かつ効率的な管理・運営をしていく。				

# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	462	地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	民間委託分学童クラブ費					2		
事業概要	保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業終了後や休暇に適切な遊びや生活の場を与えて、児童の健全な育成を図る。					主管課・係（担当）		
						子育て政策課児童館担当		
						03-5608-6195		
施策への 関連性	学童クラブの待機児童の解消を図るとともに、児童の健全に育成できる環境を整える。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	就労形態の変化からも、放課後等における児童の安全・安心な預け場所のニーズは高まっている。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	児童の安全な居場所の確保と健全育成を目的とした事業であり、区が実施する必要性は高い。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	公立学童クラブ定員数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
		1,765	32	目 標	1,515	1,565	1,615	1,690
				実 績	1,515			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目 標	1,765				
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	学童クラブの待機児童の解消を目標としていることから、定員数を指標とする。なお、平成29年度においては、25人／館を定員とした2館を開館することを目標とする。なお、平成29年度は墨田区次世代育成支援行動計画の中間見直しのため、数値の変更がある予定							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	学童クラブの待機児童数				単 位	人
最終目標値		目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31		
0		32	目 標	139	187	137	62	
			実 績	139	187			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目 標	0					
	実 績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
学童クラブの待機児童の解消を目標としていることから、待機児童数を指標とする。なお、平成29年度は墨田区次世代育成支援行動計画の中間見直しのため、数値の変更ある予定								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	560,401							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕学童クラブ室を増やす予定であることから、増額する傾向が予想される。				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
就労形態の変化からも、放課後等における児童の安全・安心な預け場所のニーズは高まっている。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
保護者の就労等による共働きが増えてきていることにより、保護者不在の時間に子どもに適切な遊び及び生活の場を整える必要がある。		5	5	5	5
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>現状維持の上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
児童の安全安心かつ健全育成を図る場所として、学童クラブに代わる施設はない状況である。					
<b>中間・最終年度の講評</b>	児童の安全な居場所を確保し、保護者の就労を支援するため、有効な事業であることから、引き続き適正に運用する。				
<b>今後の方向性</b>	ニーズの増加が想定されることから、定員拡大を図っていく。				

# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	462	地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	子ども・子育て複合施設（京成高架下利用）整備事業費					3		
事業概要	基本計画に基づき、乳幼児から小学生までを主とした子どもたちが体力の向上を図りながら、児童の健全な育成を目指す施設を整備する。					主管課・係（担当）		
						子育て政策課児童館担当 03-5608-6195		
施策への 関連性	室内で児童が安心して多様な体験ができる施設を整備することにより、児童の健全育成のための環境が向上する。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	ニーズ調査では、子どもの豊かな育ちをはぐくむ場や機会の充実が望まれている。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	健全育成を図るために、児童等が自由に利用できる施設とするため、公共施設として整備する必要がある。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	施設整備箇所数				単位	箇所
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		1	30	目標	0	0	1	0
				実績	0			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目標	0	0	0	0	0
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	平成30年度開設に向けて、内装設計及び内装工事を行う箇所数を指標とする。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	施設の利用者数				単位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		20,000	30	目標	0	0	20,000	20,000
			実績					
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
児童等が自由に利用できる施設として整備することから、それに係る利用者数を指標とする。なお、目標値については、規模等を勘案して20,000人程度/年とする。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	0							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕平成28年度の実施設設計委託の予算の繰越しを行い、平成30年度中の開設を目標に整備する。				



<b>1 必要性・妥当性</b>								
区民ニーズの有無	ある							
代替可能性の有無	ない							
区が実施すべき強い理由があるか	ある							
<b>判断理由</b>								
室内で大型遊具を設置した施設が区内にないことから、安全に遊べる施設として区民のニーズは高い。								
<b>2 有効性・適格性</b>								
事業の目的が施策に合致しているか	合致している							
指標は目標値を満たしているか	満たしている							
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある							
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率性 経済性	有効性 適格性			
京成押上線立体化に伴う高架下利用であり、駅に近接する立地からも有効性は高い。		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果			
		5	5	4	4			
<b>3 効率性・経済性</b>		<p style="text-align: center;">改善・見直しの上継続</p>						
目的・対象が類似する事務事業はないか	類似事業はあるが統合等は望ましくない							
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある							
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある							
<b>判断理由</b>								
児童館分館として整備するものであり、類似事業の拡充である。高架下であることから、工程等について関係機関と協議している。								
中間・最終年度の講評	京成押上線立体化に伴う高架下利用により、交通利便性の高い場所に、児童等の安全かつ多様な体験ができる施設を整備することで、子どもを健全に育成できる環境整備に大きく寄与する。							
今後の方向性	平成30年度中の開設に向けた整備を進める。							



# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	462	地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	新設学童クラブ設置等経費						4	
事業概要	学童クラブがない小学校区域又は待機児童が発生している地域に学童クラブを開設することで、学童クラブの待機児童の解消を図る。						主管課・係（担当）	
							子育て政策課児童館担当 5608-6195	
施策への 関連性	学童クラブを開設することで、安心して働くための子育て支援サービスを利用できる環境づくりにつながる。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	就労形態の変化からも、放課後等における児童の安全・安心な預け場所のニーズは高まっている。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	民間保育所の整備運営と比較して公費負担が少なく、学童クラブ室の開設を民間が行うことは難しいと考えられる。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	新設学童クラブ定員数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		250	32	目標 実績	50 50	50	50	75
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	75					
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	学童クラブの待機児童の解消を目標としていることから、定員数（拡大数）を指標とする。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	学童クラブの待機児童数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		0	32	目標 実績	139 139	187 187	137	62
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		0						
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
学童クラブの待機児童の解消を目標としていることから、待機児童数を指標とする。なお、平成29年度は墨田区次世代育成支援行動計画の中間見直しのため、数値の変更がある予定。								
財政面 (決算額) (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	30,518							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕施設の設置においては、開設時の内装費のほかランニングコストとして家賃がかかる。				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
学童クラブの待機児童が出ていることから、 <b>新規</b> 開設は必要性が高い。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
保護者の就労等による共働きが増えてきていることにより、保護者不在の時間に子どもに適切な遊び及び生活の場を整える必要がある。		5	5	5	5
3 効率性・経済性		<p style="text-align: center;">現状維持の上継続</p>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
待機児童の状況等に応じた効果的な整備のため、民間賃貸物件を活用している。					
中間・最終年度の講評	保護者の就労形態の変化から、学童クラブにおけるニーズは高まっており、新設学童クラブの開設の必要性は高い。				
今後の方向性	公共施設や民間賃貸物件の活用による効率的な整備により、待機児童の解消を図る。				

# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	462	地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	児童館トイレ改修工事					5		
事業概要	経年劣化した児童館トイレを改修し、ドライ化する。					主管課・係（担当）		
						子育て政策課児童館担当		
						03-5608-6195		
施策への 関連性	児童館のトイレを利用者がより快適に使用できるようになり、地域の子育て支援施設としての機能が強化される。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	利用者から改善要望が出ている。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	区の事業計画に基づき、区立児童館を地域子育て支援拠点として各種事業を実施するために必要な施設整備のため、代替性は低い。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	トイレ改修を行う児童館				単 位	館
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		11	37	目 標	1	1	1	
				実 績	1			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目 標					
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	全ての児童館において対応が必要なため、館数を指標とする。平成32年度以降の目標値については、長期修繕計画と整合を図りながら設定する。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	児童館の利用者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		562,000	37	目 標	560,000	560,000	561,000	562,000
			実 績	555,575				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目 標						
	実 績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
トイレ改修するより、利用者がより快適に使用できることになることから、利用者数を指標とする。平成32年度以降の目標値については、活動指標と整合を図りながら設定する。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	10,554							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕館ごとに構造が違ふことから、年度ごとの工事費は異なる。				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
区民が活用する施設において、快適に利用できるように改修する必要がある。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
長期修繕計画及び公共施設マネジメント計画と調整をしながら進めていく必要がある。		5	5	4	4
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>改善・見直しの上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
長期修繕計画及び公共施設マネジメント計画と調整しながら、トイレ改修を含めた児童館全体の改修を検討する必要がある。					
<b>中間・最終年度の講評</b>	地域子育て支援拠点として機能強化を図ることが求められており、事業の必要性は高いが、館全体の老朽化が進んでいる状況もあることから、長期修繕計画及び公共施設マネジメント計画との調整が必要である。				
<b>今後の方向性</b>	平成29年度の児童館のあり方検討の結果を踏まえ、大規模修繕等の計画を検討する。				

# 平成29年度 事務事業評価シート

施 策	462	地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	放課後子ども総合プラン推進事業					6		
事業概要	緑小学校において実施している放課後子ども教室と連携し、子どもたちの放課後の居場所づくりを行い、学童クラブの待機児童の解消を図る。					主管課・係（担当）		
						子育て政策課児童館担当 5608-6195		
施策への 関 連 性	地域と連携して、放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動ができる居場所を確保することができる。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	就労形態の変化からも、放課後等における児童の安全・安心な預け場所のニーズは高まっている。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	学校内において、放課後子ども教室と児童館事業が連携するものであることから、代替性は低い。							
有効性・ 適格性	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	フレンズみどり（緑小学校内）の定員数			単 位	人	
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		40	37	目 標 40				
				実 績 40				
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目 標					
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	緑小学校の教室を活用していることから、最大定員数を指標とする。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	学童クラブの待機児童数			単 位	人	
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		0	32	目 標 139	187	137	62	
			実 績 139	187				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目 標	0					
	実 績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
学童クラブの待機児童の解消を図ることを目標としていることから、指標とする。なお、平成29年度は墨田区次世代育成支援行動計画の中間見直しのため、数値の変更ある予定。								
財 政 面 (決算額) (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	11,770							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕横ばいである。				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由 学校内に学童クラブの設置場所が無いため、放課後子ども教室の場所を活用して事業を実施することは不可欠である。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	活動指標のみ満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
人口増により待機児童数が増えていることから、目的に対する目標値を満たすことは難しい。		5	4	5	4
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>改善・見直しの上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由 放課後子ども教室と連携することで、地域やPTAとの交流が図られている。					
中間・最終年度の講評	保護者の就労形態の変化などにより、学童クラブのニーズは高まっており、地域と連携した運営による事業効果も大きいことから効果的な事業である。				
今後の方向性	国の「放課後子ども総合プラン」においても「平成31年度末までに全ての小学校区で、放課後児童クラブ及び放課後子ども教室を実施」と定められていることから、引き続き、実施する。				

# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	461	必要な子育て支援サービスを適切に利用できる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	保育園改築事業（学童クラブ部分）					7		
事業概要	老朽化した亀沢保育園の改築に伴い、学童クラブを併設し学童定員を増員することにより、学童クラブ待機児童解消の促進を目指す。					主管課・係（担当）		
						子育て政策課児童館担当		
		5608-6195						
施策への関連性	保育園と学童クラブの複合施設の建設により、安心して働くための子育て支援サービスを利用できる環境整備につながる。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	待機児童が多く出ている地域において子どもを預ける場所が求められている。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	民間保育所の整備運営と比較して公費負担が少なく、学童クラブ室の開設を民間が行うことは難しいと考えられる。							
有効性・適格性	手段に対する指標 (活動指標)	指標	学童クラブの定員数（（仮称）亀沢学童クラブ分室）				単位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		80	30	目標	0	0	80	0
				実績	0			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目標	0	0	0	0	0
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	本施設の建設により、学童クラブの定員が確保されることから、定員数を指標とする。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	学童クラブの待機児童数				単位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		0	32	目標	139	187	137	62
			実績	139	187			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	0					
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
学童クラブの待機児童の解消を目標とすることから、指標とする。なお、平成29年度は墨田区次世代育成支援行動計画の中間見直しのため、数値の変更がある予定。								
財政面 (決算額) (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	84,640							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 建設の出来高により予算は3か年で組まれている。学童クラブ部分においては全体の40%を支出予定。				



<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
平成29年4月現在、外手児童館周辺の待機児童数は28人であることから、学童クラブを新規に設置する必要性がある。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	有効性 適格性
保護者の就労等による共働きが増えてきていることにより、保護者不在の時間に子どもに安全な居場所を確保するうえで、本事業は施策に合致している。		5	5	5	5
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>現状維持の上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
待機児童の状況に応じた効果的な整備として、保育施設との合築は効率的である。					
<b>中間・最終年度の講評</b>	保護者の就労形態の変化から、学童クラブのニーズは高まっており、新設学童クラブ開設の必要性は高い。				
<b>今後の方向性</b>	保育施設と学童クラブの併設であることから、効率的な運用を図っていく。				

# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	462	地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる	部内優先順位									
事務事業	私立学童クラブへの助成						8					
事業概要	私立学童クラブに対し、運営に係る経費の一部を補助する。						主管課・係（担当）					
							子育て政策課児童館担当					
							03-5608-6195					
施策への 関連性	学童クラブの待機児童の解消を図るとともに、児童を健全に育成できる環境を整える。											
必要性・ 妥当性	区民のニーズ											
	就労形態の変化からも、放課後等における児童の安全・安心な預け場所のニーズは高まっている。											
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）											
	待機児童が出ている現状において、民間が運営する私立学童クラブは、必要不可欠である。											
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	私立学童クラブ定員数				単 位	人				
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31					
		205	37	目標 実績	205 205	205	205					
		H32	H33	H34	H35	H36	H37					
		目標 実績	205 205	205 205	205 205	205 205	205 205					
		指標の選定理由及び目標値の理由										
	学童クラブの待機児童の解消を目標としていることから、解消に寄与する定員数を指標とする。											
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	学童クラブ待機児童数				単 位	人				
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31					
		0	32	目標 実績	139 139	187 187	137 62					
		H32	H33	H34	H35	H36	H37					
		目標 実績	0 0									
指標の選定理由及び目標値の理由												
学童クラブの待機児童の解消を目標としていることから、待機児童数を指標とする。なお、平成29年度は墨田区次世代育成支援行動計画の中間見直しのため、数値の変更がある予定。												
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34					
	23,744											
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕横ばいである。								

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
私立学童クラブは、学童クラブの待機児童解消の一役を担っていることから、その運営補助は妥当である。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	有効性 適格性
学童クラブの待機児童解消における貢献度は高く、また平日育成のほか長期休暇のみの育成等独自の事業を行って、施策に合致している。		5	5	5	5
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>現状維持の上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
学童クラブの待機児童がいることから、民間で実施する事業への補助は効率的である。					
<b>中間・最終年度の講評</b>	学童クラブの待機児童解消のほか、児童の安全・安心な居場所の確保のために、本補助は必要不可欠である。				
<b>今後の方向性</b>	引き続き補助していく。				

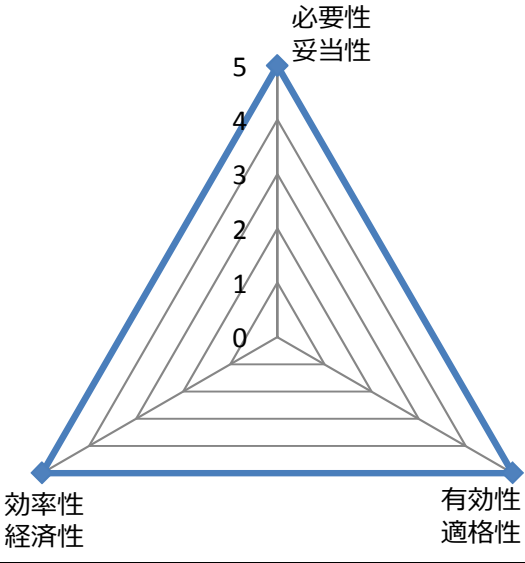
# 平成29年度 補助金評価シート

補助金 名称	私立学童クラブへの助成						主管課・係（担当）	
根拠法令	墨田区私立学童クラブ事業補助要綱						子育て政策課児童館担当	
事業概要	私立学童クラブに対し、運営に係る経費の一部を補助する。						03-5608-6195	
							事業の終期	
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	就労形態の変化からも、放課後等における児童の安全・安心な預け場所のニーズは高まっている。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	待機児童が出ている現状において、民間が運営する私立学童クラブは、必要不可欠である。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	私立学童クラブ定員数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		205	37	目標	205	205	205	205
				実績				
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	205	205	205	205	205	205
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	学童クラブの待機児童の解消を目標としていることから、解消に寄与する定員数を指標とする。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	学童クラブ待機児童数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		0	32	目標	139	187	137	62
				実績	139	187		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標		0						
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
学童クラブの待機児童の解消を目標としていることから、待機児童数を指標とする。なお、平成29年度は墨田区次世代育成支援行動計画の中間見直しのため、数値の変更ある予定。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	23,744							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕横ばいである。				
施策への 関 連 性	学童クラブの待機児童の解消を図るとともに、児童を健全に育成できる環境を整える。							

1 必要性・妥当性			5	
区が実施する理由があるか	ある	目的が政策上の位置付けと整合しているか	している	
目的・内容等が社会経済情勢に合致しているか	している	不特定多数の利益の増進に寄与するか	している	
区民ニーズに即しており、公益上必要と認められるか	認められる	個人利益に対する利益に留まらず適切な対象範囲に波及するか	する	
区の施策目標の実現に寄与しているか	している			
判断理由				
私立学童クラブは、学童クラブの待機児童解消の一役を担っていることから、その運営補助は妥当である。				
2 有効性・適格性			4	
経費、補助額の算定根拠が明確になっているか	なっている	交付機会の公平性や負担の公平性が確保されているか	されている	
区が負担する割合として適切か	適切である	補助団体の活動内容が目的と合致しているか	合致している	
任意団体に対する補助の場合、自立化を促進するものであるか	ある	補助目的及び金額に見合う実績等の効果があるか	ある	
補助目的が既に達成されていないか	されている	目標及び見込まれる効果が明確か	明確	
団体等が自らの財源で賄う範囲と区の支援範囲が明確となっているか	なっている	効果測定の具体的な目標・指標が明確か	明確	
判断理由				
学童クラブの待機児童解消における貢献度は高く、また平日育成のほか長期休暇のみの育成等独自の事業を行っていて、施策に合致している。				
3 効率性・経済性			5	
類似する補助事業がないか	ない	地域社会や区民等へ波及効果があるか	ある	
手続が過度に煩雑でないか	煩雑ではない	個人の経済的負担軽減の場合、実質的公平性を考慮しているか	している	
目的に対する区の負担割合が適切か	適切である			
判断理由				
学童クラブの待機児童がいることから、民間で実施する事業への補助は効率的である。				
【評価結果】				
改善・見直し				
中間・最終年度の講評	学童クラブの待機児童解消のほか、児童の安全・安心な居場所の確保のために、本補助は必要不可欠である。			
今後の方向性	引き続き補助していく。			

# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	462	地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	民間児童館活動支援事業					9		
事業概要	私立学童の事業において、先駆的・先進的の事業ができるように、一定の基準を設けて民間児童館の活動を支援する。					主管課・係（担当）		
						子育て政策課児童館担当		
						03-5608-6195		
施策への 関連性	子どもたちが放課後等過ごす場所として、安全・安心かつ多様な体験ができる居場所を確保する。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	子どもたちの安全・安心かつ多様な体験ができる居場所のニーズが高まっている。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	民間の能力を活用し、子どもの居場所を充実させる事業のため代替性は低い。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	児童館の利用登録数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		120	37	目標 実績	112 112	120	120 120	
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	120	120	120	120	120	
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	放課後の過ごす場所として児童館も含まれることから、利用登録数を指標とする。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	児童館事業回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		60	37	目標 実績	60 63	60	60 60	
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		60	60	60	60	60		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
利用者が事業に参加することにより体験できる機会が与えられることから、事業回数を指標とする。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	2,085							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 横ばいである。				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
民間の能力を活用し、子どもの居場所を充実させる事業のため代替性は低い。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
子どもに多様な体験の機会を与えることは、健全な育成につながることから、施策に合致している。		5	5	5	5
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>現状維持の上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
補助金を活用することにより、子どもに多様な体験の機会を与えると同時に、居場所を確保できている。					
<b>中間・最終年度の講評</b>	民間活力の活用により、児童への多様な体験の機会及び安全・安心な居場所が確保でき、効果の高い事業である。				
<b>今後の方向性</b>	引き続き補助していく。				



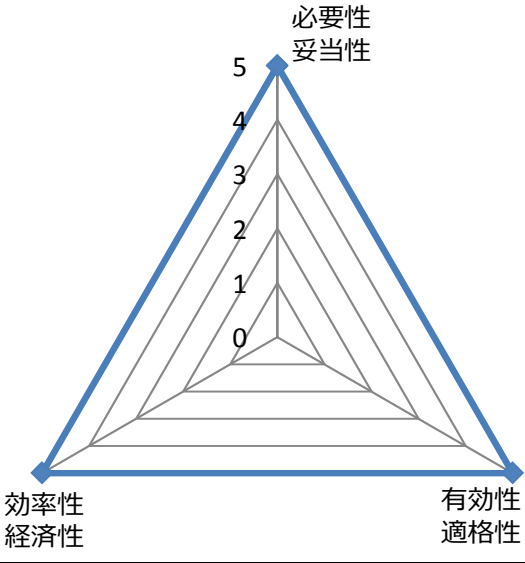
# 平成29年度 補助金評価シート

補助金 名称	民間児童館活動支援事業						主管課・係（担当）	
根拠法令	墨田区民間児童館先駆的活動事業推進補助要綱						子育て政策課児童館担当	
事業概要	私立学童の事業において、先駆的・先進的の事業ができるように、一定の基準を設けて民間児童館の活動を支援する。						03-5608-6195	
							事業の終期	
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	子どもたちの安全・安心かつ多様な体験ができる居場所のニーズが高まっている。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	民間の能力を活用し、子どもの居場所を充実させる事業のため代替性は低い。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	児童館の利用登録数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		120	37	目標 実績	112	120	120	120
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	120	120	120	120	120	120
		実績						
		指標の選定理由及び目標値の理由						
	放課後の過ごす場所として児童館も含まれることから、利用登録数を指標とする。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	児童館事業回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		60	37	目標 実績	60	60	60	60
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	60	60	60	60	60	60
		実績						
指標の選定理由及び目標値の理由								
利用者が事業に参加することにより体験できる機会が与えられることから、事業回数を指標とする。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
		2,085						
		H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 横ばいである。			
施策への 関 連 性	子どもたちが放課後等過ごす場所として、安全・安心かつ多様な体験ができる居場所を確保する。							

1 必要性・妥当性			5	
区が実施する理由があるか	ある	目的が政策上の位置付けと整合しているか	している	
目的・内容等が社会経済情勢に合致しているか	している	不特定多数の利益の増進に寄与するか	している	
区民ニーズに即しており、公益上必要と認められるか	認められる	個人利益に対する利益に留まらず適切な対象範囲に波及するか	する	
区の施策目標の実現に寄与しているか	している			
判断理由				
民間の能力を活用し、子どもの居場所を充実させる事業のため代替性は低い。				
2 有効性・適格性			4	
経費、補助額の算定根拠が明確になっているか	なっている	交付機会の公平性や負担の公平性が確保されているか	されている	
区が負担する割合として適切か	適切である	補助団体の活動内容が目的と合致しているか	合致している	
任意団体に対する補助の場合、自立化を促進するものであるか	ある	補助目的及び金額に見合う実績等の効果があるか	ある	
補助目的が既に達成されていないか	されている	目標及び見込まれる効果が明確か	明確	
団体等が自らの財源で賄う範囲と区の支援範囲が明確となっているか	なっている	効果測定の具体的な目標・指標が明確か	明確	
判断理由				
子どもに多様な体験の機会を与えることは、健全な育成につながることから、施策に合致している。				
3 効率性・経済性			5	
類似する補助事業がないか	ない	地域社会や区民等へ波及効果があるか	ある	
手続が過度に煩雑でないか	煩雑ではない	個人の経済的負担軽減の場合、実質的公平性を考慮しているか	している	
目的に対する区の負担割合が適切か	適切である			
判断理由				
補助金を活用することにより、子どもに多様な体験の機会を与えるとともに、居場所を確保できている。				
【評価結果】				
改善・見直し				
中間・最終年度の講評	民間活力の活用により、児童への多様な体験の機会及び安全・安心な居場所が確保でき、効果の高い事業である。			
今後の方向性	引き続き補助していく。			

# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	462	地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	地域組織活動育成事業					10		
事業概要	地域組織の活動を補助していくことで、子どもたちの健全育成に繋がる活動を支援していく。					主管課・係（担当）		
						子育て政策課児童館担当		
						03-5608-6195		
施策への 関連性	子どもたちの健全育成に寄与するために活動する地域組織を補助することにより、安心して働くための子育て支援サービスを利用できる環境づくりにつながる。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	児童の活動範囲において、安全・安心に過ごせる地域のニーズは高まっている。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	地域と児童館の連携を支援することにより、児童館事業の充実、見守り体制の強化などが図れるため、必要性は高い。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	地域組織における会員数（2団体）				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		195	37	目 標	195	195	195	
				実 績	182			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目 標	195	195	195	195	195
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	地域組織団体は会員数により活動の幅に関係することから、会員数を指標とする。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	児童館と共催の行事数（2団体）				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		15	37	目 標	15	15	15	
				実 績	15			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目 標	15	15	15	15	15
	実 績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
児童館行事のなかには地域との連携が欠かせないものがあることから、共催している行事数を指標とする。								
財 政 面 (決算額) (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	150							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 横ばいである。				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
地域との連携は児童の安全・安心な居場所確保において必要不可欠である。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
地域との連携は児童の安全・安心な居場所確保につながっている。		5	5	5	5
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>現状維持の上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
補助金を活用することにより、地域と児童館の連携がより深まったものとなっている。					
<b>中間・最終年度の講評</b>	地域と児童館との連携により、児童の安全・安心な居場所が確保できていることから、効果の高い事業である。				
<b>今後の方向性</b>	引き続き補助していく。				

# 平成29年度 補助金評価シート

補助金 名称	地域組織活動育成事業						主管課・係（担当）	
根拠法令	墨田区地域組織活動費補助要綱						子育て政策課児童館担当	
事業概要	地域組織の活動を補助していくことで、子どもたちの健全育成に繋がる活動を支援していく。						03-5608-6195	
							事業の終期	
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	児童の活動範囲において、安全・安心に過ごせる地域のニーズは高まっている。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	地域と児童館の連携を支援することにより、児童館事業の充実、見守り体制の強化などが図れるため、必要性は高い。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	地域組織における会員数（2団体）				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		195	37	目 標	195	195	195	195
				実 績	182			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	195	195	195	195	195	195
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	地域組織団体は会員数により活動の幅に関係することから、会員数を指標とする。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	児童館と共催の行事数（2団体）				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		15	37	目 標	15	15	15	15
				実 績	15			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	15	15	15	15	15	15
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
児童館行事のなかには地域との連携が欠かせないものがあることから、共催している行事数を指標とする。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
		150						
		H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 横ばいである。			
施策への 関 連 性	子どもたちの健全育成に寄与するために活動する地域組織を補助することにより、安心して働くための子育て支援サービスを利用できる環境づくりにつながる。							

1 必要性・妥当性			5	
区が実施する理由があるか	ある	目的が政策上の位置付けと整合しているか	している	
目的・内容等が社会経済情勢に合致しているか	している	不特定多数の利益の増進に寄与するか	している	
区民ニーズに即しており、公益上必要と認められるか	認められる	個人利益に対する利益に留まらず適切な対象範囲に波及するか	する	
区の施策目標の実現に寄与しているか	している			
判断理由				
地域との連携は児童の安全・安心な居場所確保において必要不可欠である。				
2 有効性・適格性			4	
経費、補助額の算定根拠が明確になっているか	なっている	交付機会の公平性や負担の公平性が確保されているか	されている	
区が負担する割合として適切か	適切である	補助団体の活動内容が目的と合致しているか	合致している	
任意団体に対する補助の場合、自立化を促進するものであるか	ある	補助目的及び金額に見合う実績等の効果があるか	ある	
補助目的が既に達成されていないか	されている	目標及び見込まれる効果が明確か	明確	
団体等が自らの財源で賄う範囲と区の支援範囲が明確となっているか	なっている	効果測定の具体的な目標・指標が明確か	明確	
判断理由				
地域との連携は児童の安全・安心な居場所確保につながっている。				
3 効率性・経済性			5	
類似する補助事業がないか	ない	地域社会や区民等へ波及効果があるか	ある	
手続が過度に煩雑でないか	煩雑ではない	個人の経済的負担軽減の場合、実質的公平性を考慮しているか	している	
目的に対する区の負担割合が適切か	適切である			
判断理由				
補助金を活用することにより、地域と児童館の連携がより深まったものとなっている。				
【評価結果】				
改善・見直し				
中間・最終年度の講評	地域と児童館との連携により、児童の安全・安心な居場所が確保できていることから、効果の高い事業である。			
今後の方向性	引き続き補助していく。			

# 平成29年度 事務事業評価シート

施 策	462	地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	次世代育成支援行動計画推進事業費（児童館）					11		
事業概要	次世代育成支援行動計画に基づき、児童館で地域子育て支援拠点事業を行うにあたり、設備が不足している児童館に対して整備を図る。					主管課・係（担当）		
						子育て政策課児童館担当 03-5608-6195		
施策への 関 連 性	児童館の設備（ベビーキープ、ベビーベッド、乳幼児コーナー）整備をすることで、乳幼児事業の運営を円滑にする。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	乳幼児及びその保護者が児童館で過ごすうえで、上記設備が必要となる。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	区の事業計画に基づき区立児童館を地域子育て支援拠点として位置付けて乳幼児事業を実施するための必要な施設整備のため、代替可能性は低い。							
有効性・ 適格性	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	乳幼児に関する施設整備を図る必要がある児童館				単 位	館
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		6	28	目 標	6			
				実績	6			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目 標					
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	乳幼児事業を実施するにあたり、ベビーキープ等を設置する必要がある児童館数を指標とする。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	乳幼児に関する施設整備が図られている児童館				単 位	館
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		11	28	目 標	11			
				実績	11			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標						
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
乳幼児事業を実施するにあたり、施設整備は欠かせないことから、それが実施されている館を指標とする。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	1,969							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕平成29年度から児童館は子育て支援拠点として位置づけられることから、そのための施設整備を平成28年度に実施した。				



<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
子育て世帯が、児童館という身近な場所で気軽に <b>利用</b> できる環境整備の観点からも、事業実施の必要性は高い。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
利用しやすい環境整備により、子育て世帯の孤立化防止等に大きく寄与するものである。		5	5	4	4
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>改善・見直しの上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	類似事業はあるが統合等は望ましくない				
実工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ない				
<b>判断理由</b>					
児童館機能の強化であり、必要性・妥当性は高い。					
<b>中間・最終年度の講評</b>	児童館における乳幼児事業を強化するものであり、既存ストックを活用した子育て環境の整備として有効である。				
<b>今後の方向性</b>	施設の大規模改修などに合わせて、施設ごとに有効性などを再検証しながら、充実を図っていく。				

# 平成29年度 事務事業評価シート

施 策	462	地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	地域交流事業					12		
事業概要	園行事に地域住民（保育園児、幼稚園児、小中学生、町会の方、高齢者等）を招待し、一緒に遊び食事をとるなどして交流する。また園児が園、学校、高齢者施設等を訪問し、遊びを教わったり、園児が歌などを披露し交流する。					主管課・係（担当）		
						子ども施設課保育係		
03-5608-6161								
施策への 関 連 性	保育園と地域との交流を促進し、豊かな人間性を持った子どもを育成するとともに、地域に開かれた保育園（こども園を含む）になり、地域の子育て支援を行う。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	保育園と地域の結びつきを強め、地域の交流と子育て支援の役割を担っていく。園児が様々な人々と交流する機会をもつことにより、憧れや思いやり自主性を身につけることができる。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	保育園事業の一環と位置づけし、保育園事業費に統合する。							
有効性・ 適格性	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	交流の実施回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
		220	29	目 標	220	220		
				実 績	238			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標						
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	交流の実施回数を指標とした。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	交流事業参加者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
		5000	29	目 標	5000	5000		
			実 績	5376				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目 標								
	実 績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
交流事業の参加者数を指標とした。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	331							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
<b>判断理由</b>					
保育園事業に統合する。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
保育園事業に統合する。		4	5	1	2
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>類似事業との統合</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ある				
実工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
保育園事業に統合する。					
<b>中間・最終年度の講評</b>	事業内容を継続しつつ、保育園事業へ切り替える。				
<b>今後の方向性</b>	事業内容を継続しつつ、保育園事業へ切り替える。				